



# 成隣だより

平成28年 11月1日  
第7号  
昭島市立成隣小学校  
校長 加賀田 真理

## 「減災」への取り組み

副校長 眞砂野 裕

秋深まりゆく今日この頃、学校周辺の自然も着実に秋の装いをまとってきました。私たちの国日本は、世界有数の自然豊かな美しい国です。しかし、多くの恵みをもたらす我が国の自然は、一方で、自然災害という両刃の剣を持ち併せています。

「減災」という言葉（概念）をご存知でしょうか。

現在も自然災害による多くの被災者がいらっしゃる中で軽々に述べることはできませんが、これだけ科学が進歩した今日においても、自然災害を防ぐことは大変難しいことです。それならば、「命を守ること」の次に私たちが考えるべきことは、少しでも災害の被害を減らすこと、即ち「減災」であると思います。成隣小学校では、多くの方々のご支援をいただきながら「減災」への備えを進めています。

### 1) 食料・飲料水の確保～日々の備えとして～

本校では市教育委員会ならびにPTAのご支援をいただきながら、児童数分の非常食を確保しています。すでにご案内の通り、昭島市では震度5弱以上の地震発生の際には児童を学校に保護し、保護者（または児童資料に記載された代理の方）以外には引き渡さないことになっています。この非常食は、その間の食料に充てます。また、非常時の飲料水を校地内の貯水槽から直接受けるための専用ポリバケツや、一人1つのプラコップもPTAに購入していただきました。

### 2) 学校が避難所となったら・・・

本校が避難所となった場合を想定し、日常から準備をすすめています。この母体となるのは「避難所開設準備委員会」です。市防災課や各自治会、学校関係者が一堂に会し万一の事態に備えた話し合いを重ねています。また、本校では避難所となった場合の教室活用掲示を常設しています。ご来校の際など、ぜひご覧ください。

### 3) 成隣キャンプ

今年の成隣キャンプが10/22(土)23(日)に開催されました。例年以上に防災色を前面に企画したPTA本部役員の方の熱意の下、昭島市防災課・昭島消防署・消防団・各自治会・地区委員会が連携し、子供たち（220名参加）にとっても大変充実した時間となりました。学校全体を利用した多様なコーナーの数々。4年生以上の宿泊は、異学年の仲間と作り上げた段ボールハウスでした。企画内容はもちろん、諸団体や子供同士が防災に向けて協力しあった実感や安心感そのものが、大きな収穫でした。



「減災」のポイントは、日々の備えに加え、「体験に基づいた実感や安心感」にあるのかもしれない。

日頃から取り組むべきことは何か、ご家庭でもぜひ「減災」について話し合ってみてください。